

# 日刊 勤労千葉

86. 4. 16

No. 2217

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

感想文

## 俺たちは 鉄道に生きる

宮島義勇・監督作品



ありがとう！ 家族会から宮島監督へ感謝の花束（4/2）

「四・一二映画と講演の夕べ」ののち、参加者、組合員から、数多くの感想、意見が寄せられています。今後の上映運動、「分割・民営化」阻止の闘いの拡大にむけ、その中のいくつかを紹介いたします。

### 家族の目から

#### 「婦人の力」に確信あらた

法政大学教授・増田寿男氏の講演「三五八日のストライキ」は、日本ではとても考えられないことで、支援組織、炭鉱閉鎖に反対する婦人の会の女性の涙ぐましい協力は、ただ「驚き」の一語でした。日本の婦人も目覚めねばと思いました。

最後に「数年ぶりに日本へ帰ってきて、行く前よりも大分進んでいる右傾化にびっくりしました」とおっしゃっていましたが、これはいったい何を意味しているのでしょうか。戦争体制が徐々にできあがってきているということではないでしょうか。

「俺たちは鉄道に生きる」をおつくりになられた宮島義勇監督は、かなりの老令に見えましたが、あいさつでは、全身に映画をつくる情熱がみなぎられ、たいへんすばらしい老人でした。映画は、マスコミ報道からはつかむことができない、真に迫った場面の連続で国労のスト破りに勤労組合員が「同じ労働者が首をかくて闘っているときに電車を走らすとはどういうことだ」と喰ってかかる場面には思わず息をのみこみまわした。管理職とのホーム上での根くらべとも思えるニラメッコ等、男なら

いにむかっていく姿がとても印象的で、感動しました。このフィルムを全国の人達が一人でも多く見て、共に闘いに立ちあがればよいと思います。がんばって下さい。（婦人）

大変感動致しました。はじまりの部分、組合で撮った8ミリの部分は、写しがボケていた点がやむをえなかったとは思いますが、その分、後半でどんどんひきこまれ

ではの世界をかいま見た思いでした。一人でも多くの方々にこの映画を見てもらい、感動し、目覚め、そして起ってほしいと願っています。（家族会 Aさん）

### ひしひしと胸に迫った……

こわばった状況のなかで、全力で闘っている夫達、支えて下さる多くの人々、私達家族の生活がこうした人達によって守られていることがひしひしと感じられ、胸に迫るものがありました。

唯、国鉄現場に詳しい人にはスムーズに見られる場面も、一般の人達が見た場合かなり難解な部分があるので「第二波ストの写真集」のような映画用パンフを作成してその中であらましを解説するのも一つの方法だと思いましたが、ナレーションがもつとたくさんはいった方がいいのはとも思いました。（家族会 Bさん）

### お父さん達、ガンバ！！

何年かぶりの映画です。声と映像が違うので最初とまどいました。でも監督さんがこれほど勤労千葉を応援し撮って下さったと思うと感動しました。最後に一言、お父さん達、ガンバ！！（家族会 Cさん）

た。更に、一点希望をいえば、職場での討論場面もう少しあれば、一般組合員の声も……。（労働者）

最高にすばらしい！労働者が職場を武器に立ち上ることのすごさ、強さ、勝利性を感じた。何より、家族会の奥さんたち、子供たちとお父さんたちの大胆で at home(フットキー)で戦闘的、大

らかな闘いに感動した。さらに、第三波へ、頑張ってください。（学生）

## 「職場を武器に起つ労働者の姿」…「印象的だった家族の姿」

国鉄「分割・民営化」阻止 二期着工 千葉労働ライキ記録映画 I

映画は途中からしか見れませんでした。第二波ストに登りつめていく勤労千葉の全組合員の闘いの「生き様」がヒシヒシと映像から伝ってきて非常に感動的でした。

とりわけ勝浦支部の家族会の模様。組合員、家族総ぐるみの闘い。その中で実際に、不安や「闘って……」という孤立感を卒直にぶつけながらも、中野委員長に絶大な信頼を寄せている組合員一家族。

「中曽根戦争体制は許せない。分割・民営化攻撃は国民みんなが反対しなければ」の家族の言葉が印象的でした。最後の「追加報告ではもう少し付け加えてほしかった。（労働者）」

この間のマスコミ報道では報道されない闘いが上映されよかったです。主婦の卒直なギモンや、本当に許せない当局のスト破壊などもりこまれていて、よかったです。

やはり、労働者の武器であるストライキで、中曽根打倒へ突き進むところが今、絶対に求められていると思う。がんばって下さい。最後まで支援します。（主婦）

途中からきたので、半分しか見られませんでした。とてもよい映画だと思いました。

勤労千葉の組合員の方や家族の方々が、一人一人苦闘しながら、闘

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！



# 映画を見て

# 組合員からの感想

敵の心臓にトドメを刺し、  
完全勝利の日まで

歴史的な十一・二八〜二九の二四時間ストーリー一人の脱落者もなく貫徹した組合員の一人として四月十二日の『俺達は鉄路に生きる』の宮島監督の映画を拝見した。

この映画が全国各地で、苦闘しつつ、闘い続けている国鉄労働者の励みになればと思うと、感無量である。第一波ストで解雇二〇名という、超反動的な不当処分をうけつつも、動労千葉は一糸も乱れぬ闘いを継続中である。

ずれ「分割・民営化路線」は粉碎され、中曽根・杉浦が打倒され、また「マル生」粉碎闘争で完全勝利した時の様な我々、戦闘的な労働者の時代が再度おとされるんだという事である。

闘いがきびしくなればなる程、右と左がはっきりとして来るのだ。動労「本部」革マルの様に、自分の身を一切国鉄当局に売り渡し、自分達だけ残れば良いのだという考え方については、我々は断固粉碎しなければならぬ。

この映画を見た労働者が、一人が二人、二人が三人とつぎつぎと起ちあがって、日帝・中曽根、杉浦の心臓部にトドメを刺し、我々が完全に勝利するまで、これからは断固運動を継続しなければならぬ。

この映画を見て、感想を一点のべるならば、闘争、闘争にあけくれる動労千葉だけど、職場の普段の闘い、職場の和気合々とした所ももっと撮ってほしかった。

(千葉運転区支部組合員B生)

何はともあれ、まず見てほしいー百万べんのオルグ・ジョー

途切れた映像の狭間で、自分だけのスクリーンには動労千葉のかつぼする姿が写し出される。同時にファシスト・中曽根の憎き顔が画面をよぎる。

脳裏に交錯する二重の映像。

「なんとしても中曽根を打倒しなくては我々は生きていけない」―上映中、心の中でこう叫んだのは私だけではない。

動労革マルの裏切り産報化、国労指導部の総屈服のもと、中曽根・国鉄当局の思うにまかせた攻撃。

しかし、十二万人の首切りを目の前にし怒りに燃えぬ労働者は存在せぬ。今や、全国鉄労働者のあいだには『首切り分割・民営化』に対し、ほうふつたる怒りがわきあがっている。

わが動労千葉は、その怒りの炎を火の玉と化し、体現させねばならぬ。

それは『国鉄ゼネスト』の実現だ。抑圧された国鉄労働者へ、闘う力を内に秘めた国鉄労働者へ、悩める国鉄労働者へ、百万べんのオルグよりも、私はこの一卷『俺達は鉄路に生きる』を送りたい。

右傾化の極まりを呈した労働運動界に存って、真正面から日帝・中曽

# 映画 俺たちは鉄路に生きる

4月12日 大反響  
千葉にて封切公開

宮島義勇 監督  
16時17分・110分

映画

順次、全国上映  
運動に移る  
予定

根に戦いを挑み、打ち破らんとする動労千葉の闘いを画面に見た全国の闘う人々そして全国鉄労働者は、必ずやこの千百人の真の労働者の姿に共感し、分割・民営化粉碎の闘いに共に決起するであろう。

(成田支部組合員A生)

期待!!

